

Saison Artist-in-Residence Visiting Fellows 2023

セゾン文化財団では、ヴィジティング・フェローとしてフランスとベルギーで活動する振付家でパフォーマーのキム・キド、フランスで活動する振付家でダンサーの藤田一樹、またドイツのタンツハウス nrw のドラマトゥルクとして活動するルーシー・オートマンを迎え、日本でのリサーチ活動を支援します。

森下スタジオで滞在者のこれまでの芸術活動や滞在中のリサーチを紹介するトークを開催予定です。



Photo: Hubert Crbières

キム・キド

振付家、パフォーマー（韓国／フランス、ベルギー）

韓国出身、現在、パリとブリュッセルを拠点とする。グラフィックデザインとパントマイムを学んだ後、アンジェ国立現代舞踊センター（CNDC）を経て、モンペリエ国立振付センター（ICI-CCN）で Christian Rizzo の指導のもと Master Exerce で研究を行う。これまでに「空想上の生物辞典」という考えから、2021年に第1章『FUNKENSTEIN』、2023年に第2章『CUTTING MUSHROOMS』を発表。『CUTTING MUSHROOMS』のクリエイションを2022年に城崎国際アートセンターで実施した。本滞在では、第3章『HIGH GEAR』の創作のために日本のマンガ文化のフィールドリサーチを行う。

滞在期間：2023年12月13日—2024年1月3日 森下スタジオ



藤田一樹

振付家、ダンサー（日本／フランス）

演劇を学んだ後、2015年に渡仏。パリ地方音楽院（CRR）とアンジェ国立現代舞踊センター（CNDC）を経て、パリ第8大学で修士号を取得し、モンペリエ国立振付センター（ICI-CCN）の Master Exerce で研究活動を行う。言葉を身振りに、身振りを言葉に翻訳するプロセスに関心を持ち、「誤解」が創造と変容の源となる振付実践を探求する。ソロ作品を発表するほか、ダンサー・パフォーマーとして、キム・キド、高田冬彦、花岡美緒、アナ・リタ・テオドロ、リヴァー・リンらの創作活動に携わる。本滞在では、同時滞在アーティストとしてキム・キドのフィールドリサーチに伴走する。

滞在期間：2023年12月13日—2023年12月28日 森下スタジオ



Photo: Matthias Heschl

ルーシー・オートマン

tanzhaus nrw ドラマトゥルク（ドイツ）

2022年からデュッセルドルフのタンツハウス nrw (tanzhaus nrw) のドラマトゥルクを務める。これまでにシュテファニー・カープが芸術監督を務めたルール・トリエンナーレや、シャウシュピールハウス・ウィーン（オーストリア）、オーバーハウゼン劇場（ドイツ）のプログラミングに関わる。また、電子ジャーナル「MAP - Media Archive Performance」の編集チームの一員であり、執筆者でもある。本滞在では、ボディ・ポリティクス、デジタル・メディア、共有責任、新しいコミュニティ等をテーマに日本のコンテンポラリーダンスに関わるアーティストの活動をリサーチする。

滞在期間：2023年12月4日—2023年12月28日 森下スタジオ

滞在アーティストやアーツマネジャーのプロフィールやトークイベントの情報はこちら。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス ウェブサイト：<https://www.saison.or.jp/air>

